

ケニア乾燥地耐性育種プロジェクトについて

(独)国際協力機構(JICA)は、平成 24 年 7 月からケニア共和国で林木育種に関する技術協力プロジェクトを実施。森林総合研究所林木育種センターは、短期専門家の派遣、研修員の受け入れ等を実施中。

1. プロジェクトの名称

ケニア国「気候変動への適応のための乾燥地耐性育種プロジェクト」

2. プロジェクト実施期間

平成 24 年 7 月～平成 29 年 6 月(5 年間)

3. プロジェクトの概要

(1)背景

ケニアでは、地球温暖化に伴う乾燥化(国土の約 8 割が乾燥地・半乾燥地、森林率 7%が進む中)にあって、人口の増加もあいまって森林の減少が懸念されており、乾燥に強く、生産性の高い郷土樹種による森林づくりが課題となっていることから、我が国に対して林木育種に関する技術協力の要請があったもの。

(2)内容

ケニア共和国における林木育種の研究能力強化及び郷土樹種の優良種苗普及体制の構築を図るため、

- ① 良質な木材を生産するセンダン属の樹種(*Melia volkensii*:ケニア郷土樹種)について、成長に優れ、かつ乾燥にも強い品種を選抜して採種園を造成、優良な種子を地域住民等に普及する取組を支援
- ② 薪炭材や家畜の飼料としても利用されるアカシア属の樹種(*Acacia tortilis*:ケニア郷土樹種)についても、成長に優れた品種を選抜し、採種林を造成する取組を支援等を実施。

(3)実施体制

- ①ケニア側 ケニア森林研究所(KEFRI)、ケニア森林公社(KFS)
- ②日本側 長期専門家: JICA(林野庁及び民間から派遣)
短期専門家: 森林総合研究所林木育種センター、九州大学

4. H26 年度の実績及び H27 年度の予定

(1)H26 年度実績

ア) 短期専門家の派遣

作業監理、DNA 分析、育種、増殖、苗畑、耐乾燥性の分野に 17 名(延べ)派遣。

イ) 研修員の受け入れ

プロジェクト管理、DNA 分析、育種、普及の 4 分野で計 7 名の研修員を受入。

(2)H27 年度の取り組み

ア) 短期専門家の派遣

作業監理、DNA 分析、育種、増殖、苗畑、耐乾燥性の各分野で、順次、派遣中。

イ) 研修員の受け入れ

①プロジェクト管理 2 名(ケニア森林公社総裁、ケニア森林研究所次長)

②普及 4 名(ケニア森林研究所 3 名、ケニア森林公社 1 名)

計 6 名を受け入れ。



キツイ採種園(植栽 2 年 2 ヶ月のメリア)



キブウェジ検定林(植栽 2 ヶ月)



メリア 2 年生の花と種子



現地検討会の様子(2015 年 2 月)